

履 歴 書

2020 年 12 月現在

<small>ふりがな</small> 氏名	<small>おかやす なおび</small> 岡安 直比	生年月日 1960 年 11 月 11 日	男(女)	国籍	日本
勤務先 〒240-0113 神奈川県三浦郡葉山町長柄 459-1-201		Tel. 070-4486-6609 E-mail: naobi.okayasu@uapacaa.org			
学 歴					
自 年. 月	至 年. 月	学 校 名			
1976.4	1979.3	東京都立国立高校			
1980.4	1984.3	京都大学理学部			
1984.4	1986.3	京都大学大学院理学研究科修士課程(動物学専攻)修了 理学修士取得			
1986.4	1992.1	京都大学大学院理学研究科博士後期課程(動物学専攻)修了 京都大学博士(理学)取得			
職 歴					
自 年. 月	至 年. 月	勤務先ならびに身分			
1992.3	1994.9	日本学術振興会海外特別研究員(派遣先:コンゴ共和国・ハウレッツ・ゴリラ野生復帰プロジェクト 客員研究員)			
1994.10	1997.12	コンゴ共和国・ハウレッツ・ゴリラ野生復帰プロジェクト ブラザビル・リハビリテーションセンター長(内戦により離職)			
2004.8	2011.6	公益増進法人 世界自然保護基金(WWF)ジャパン 自然保護室長			
2008.4	2009.3	東邦大学客員教授(担当科目「環境科学概論」)			
2009.4	2009.9	龍谷大学非常勤講師(担当科目「アフリカから地球を知る-自然保護の歴史と課題」)			
2011.7	2016.6	公益財団法人 世界自然保護基金(WWF)ジャパン ネットワーク優先地域/象徴種プロジェクト チーフコーディネーター			
2014.1	2019.3	京都大学野生動物研究センター 特任教授(リーディング大学院「PWS」分担者)			
2016.7	2018.7	公益財団法人 日本モンキーセンター 国際保全事業部 部長			
2017.4	2020.3	津田塾大学非常勤講師(担当科目「教養としての外国語;リンガラ語」)			
2018.6	～現在	NPO 法人 UAPACAA 国際保全パートナーズ立ち上げ、代表理事 兼 事務局長			
2018.7	2020.7	JICA SATREPS プロジェクト 業務調整専門家として、カメルーン駐在			

著書(単著)

1. 『サルに学ぼう、自然な子育て』草思社、2000年12月、203頁。
2. 『みなしごゴリラの学校』草思社、2000年6月、255頁。
3. 『子育てはゴリラの森で』小学館、1999年3月、280頁。

著書(共著)

4. 「第9章 絶滅危惧種を創る、護る—新たな絶滅要因、感染症によるパラダイムシフト」『絶滅危惧種を喰らう』勉誠出版、2020年12月
5. 『JAPAN ECOLOGICAL FOOTPRINT REPORT 2012』(英文)『日本のエコロジカル・フットプリント 2012』(和文) (共著) WWFジャパン、2012年12月、72頁。
6. 「第1章 生物多様性とは何か 暮らしに生きる自然」『生物多様性どう生かすか-保全・利用・分配を考える』昭和堂、2011年10月、1-37頁。
7. 『JAPAN ECOLOGICAL FOOTPRINT REPORT 2009—MAINTAINING WELL-BEING IN A RESOURCE CONSTRAINED WORLD』(英文)『エコロジカル・フットプリント・レポート日本2009—限りある資源で幸せに暮らすために』(和文) WWFジャパン、2010年8月、34頁。

学位論文

“REPRODUCTIVE BIOLOGY AND FEMALE MATE CHOICE IN WILD JAPANESE MACAQUES (野生ニホンザル群におけるメスの性行動と配偶者選択)”1992年1月23日学位(理学)取得。

論文

1. 「生物多様性保全・気候変動対策と国際社会-霊長類保護に貢献するWWF(World Wide Fund for Nature: 世界自然保護基金)ネットワークの活動」霊長類研究24号、2009年、301-312頁。
2. “Contrast of Estrus in Accordance with Social Contexts Between Two Troops of Wild Japanese Macaques on Yakushima,” *Anthropological Science* 109-2, 2001, pp. 121 – 139.
3. “Prolonged Estrus in Female Japanese Macaques (*Macaca fuscata yakui*) and the Social Influence on Estrus: With Special Reference to Male Intertroop Movement,” In: “*Topics in Primatology*,” Tokyo Univ. Press, Tokyo, 1992.
4. “Vocal Communication and its Sociological Interpretation of Wild Bonobos in Wamba, Zaire,” In: “*Primatology Today*,” Elsevier, Amsterdam, 1991, pp. 239 – 240.
5. 「『妹』のカ-野生ニホンザル社会における α メスの役割」『サルの文化誌』平凡社、1991年、455-595頁。

翻訳

1. 『生きている地球レポート 2012年版』(翻訳編集) WWFジャパン、2012年5月、160頁。
2. 『生きている地球レポート 2010年版』(翻訳編集) WWFジャパン、2010年10月、116頁。

その他

1. 共同通信子ども向け連載企画「手塚塾 ジングル大帝」全6回、2016年6~7月配信。
2. 「アフリカから見た気候変動対応」『特集:パリ合意後の気候変動対応』アジア研ワールド・トレンド、246号、2016年4月号、アジア経済研究所。
3. 「大型類人猿の野生復帰プロジェクトにおける動物園や保護団体の役割—現場の事例に学ぶ」『特集:動物園・水族館の“種”保存機能—遺伝子保存から野生復帰へ』生物の科学、遺伝69巻(6)、2015年11月1日号。
4. 「野生動物との健全な関係—イルカ漁をめぐる議論」共同通信2015年6月25日配信。
5. 「洞爺湖サミットを考える-環境蝕むメタボG8」共同通信2008年7月配信。
6. 書評「ポスト列島改造論-『課題先進国』日本」(小宮山宏著、中央公論社)共同通信2007年10月配信。
7. 書評「へこたれない ワンガリ・マータイ自伝」(ワンガリ・マータイ著、小池百合子訳)共同通信2007年6月配信。